

【超図解】日本固有文明の謎

# はユダヤで解ける



なぜ 天皇家の秘密の紋章は  
ライオンとユニコーンなのか

ノーマン・マクレオド  
久保有政

国会図書館に埋もれていた貴重絵図300点余  
による封印の歴史探求!

来訪ユダヤ人が描かせていた  
「最古の王朝日本」へのイラストレーションガイド!

待望の  
復刻版!



## まえがき

本書は、ノーマン・マクレオドの『日本古代史の縮図』のための挿し絵集』(Illustrations to the Epitome of the Ancient History of Japan)を紹介すると共に、いわゆる「日ユ同祖論」(日本・ユダヤ同祖論)の論点の幾つかを解説したものである。

マクレオドは、一九世紀、明治時代初期の日本に約一二年滞在したスコットランド人商人である。彼は「日ユ同祖論」を説いた人物としても有名である。「日ユ同祖論」とは、文字通りには、日本人とユダヤ人(イスラエル人)は同じ先祖から来ている、あるいは、先祖においてつながっているという説である。

だが、これは必ずしもそれだけの意味ではない。日本人が混血民族であるのは明らかである。日本人の中には北方系民族、南方系民族、また朝鮮半島からやって来た民族など、様々な血が混ざっている。しかしそれら様々な民族の中に、古代イスラエル人もいて、彼らもまた日本人を形成する

民族の一つとなった、という説がある。

そして彼ら古代イスラエル人は、単に日本に來たというだけでなく、また日本人の血の中に混ざったというだけでなく、じつは日本の文化・伝統の根幹を形成したとも言われている。この考えもまた、「日ユ同祖論」と呼ばれている。本書では、その日ユ同祖論の論点の幾つかを読者に紹介している。

本書のイラストは、おもにノーマン・マクレオドの『日本古代史の縮図』のための挿し絵集』のものを使った。この挿し絵集は、一八七七年に彼が京都において、英語で出版したものである。マクレオドの『挿し絵集』内の挿し絵は、すべて本書の中に収めてある。

マクレオドはその二年前に、『日本古代史の縮図』という本を出版している。「日ユ同祖論の古典」とも呼ばれる本である。彼は日本の各地をめぐる歩き、日本の伝統と日本人を観察する中で、一つの考えを持つに至った。それは、日本人は基本的に三つの異なった民族からなる、ということだった。それらの民族とは、

- 1、アイヌ民族——北方ユーラシアの原住民
- 2、小人族——南方オーストロネシアの原住民（マレー・ポリネシアン）
- 3、古代イスラエル人

である。彼はこの考えを『日本古代史の縮図』のタイトルで本にまとめ、一八七五年に長崎において英語で出版した「その日本語版は現在、たま出版から『天皇家とイスラエル十支族の真実』

〔高橋良典編〕の名で出版されている〕。

この本は、今もユダヤ人をはじめ、「イスラエルの失われた十部族」研究者、日ユ同祖論者など  
の間でよく知られている。ラビ・M・トケイヤーの本の中でも取り上げられた。一方『ユダヤ大百  
科事典』の「日本」の項（本書巻末資料）でも、マクレオドの本からの影響が強く見られる。

マクレオドの本の中には、しばしば日本語力不足等から来る誤謬ごびやうや誤解もみられるが、日本と日  
本人を観察して、そこに古代イスラエルの影響を見たという彼の主張には、興味深いものがある。

マクレオドのこの『日本古代史の縮図』刊行の二年後に彼が出版した『挿し絵集』には、その本  
のための数々の挿し絵が収められている。それらは当時の日本人画家が描いたものであり、またマ  
クレオド自身が収集したものである。これらの絵は、外国に日本を紹介するためのものであるが、  
約一三〇年も前のものであるだけに貴重なものも多い。

本書では、その挿し絵集を基調に、日ユ同祖論的観点から幾つか解説を加えてみた。

第一部では、マクレオドの主張だけでなく、広くその後の日ユ同祖論者たちの研究や、私の研究  
成果から、幾つかの興味深い事柄を解説した。とくに日本に古くから伝わる「ユニコーン」（一角  
獣）と古代イスラエルの関わりや、マクレオドが「ユダヤ人タイプの日本人」と呼ぶものなどには、  
興味深いものがある。

第二部では、マクレオドの『挿し絵集』の中に述べられている、彼自身の解説文を掲載した。そ  
の多くは、外国人旅行者のための日本案内ともなっている。

マクレオドの『挿し絵集』の挿し絵には、それぞれ短い英語解説文もついている。だが、これは英語をよく知らない当時の日本人が記したものであるため、そのつづりなどには不完全なところもある。また本書で挿し絵につけた日本語の説明の多くは、マクレオド自身がつけた説明を訳出したものである。しかし、必要に応じて私がつけ加えた説明もある。

第三部では、エドワード・オドルム教授が一九三二年に行なった講演を掲載した。彼もまた、マクレオドと同様、日ユ同祖論者である。明治時代の日本に来て、これほど熱心に日ユ同祖論を説いたカナダ人がいたことも興味深い。

本書が、読者の宝の一つとなることを願っている。

二〇〇四年六月三〇日

久保有政

## 新装版 まえがき

このたび、本書の新装版をヒカルランドから出版してくださるとのこと、たいへん嬉しく思っている。

この本には、明治時代初期の日本でマクレオドが集めた多くの貴重な挿し絵などが収められている。そのすべては、日本と古代イスラエルの関係を研究している者たちにとって、たいへん貴重なものだ。

本書には、いわゆる「日ユ（日本ユダヤ）同祖論」または「古代日本ユダヤ人渡来説」の主な論点をも、まとめてある。この説は、古代の日本にイスラエル人（ユダヤ人）が渡来し、日本の中心的な伝統文化を形成したというものである。

この説はもともと、日本人自身が唱えたものではない。マクレオドを初め、ドイツ人のエンゲルベルト・ケンペル、またユダヤ人のラビ・マーヴィン・トケイヤー、ヨセフ・アイデルバーグら、

外国人がまず唱えたものである。

まず、鎖国時代の日本に来て出島に滞在し、日本人を観察した医師エンゲルベルト・ケンペル（1651〜1716年）は、その著『日本誌』の中に、

「日本人は、バビロニア地方にいた民族の一つが、直接この島国に移住してきたものに違いない」と書いた。

のちに、19世紀になって明治初頭に、日本政府のお雇い教師となって来日したスコットランド人マクレオドは、「バビロニア地方」（アッシリア帝国のあった地域）から来たその民族とは、いわゆる「古代イスラエルの失われた10部族」だとした。

マクレオドはそれを、多くの例証をもって解説している。ただしマクレオドも、日本人が全員、古代イスラエル人の子孫だと書いたわけではない。

日本人は、様々な渡来人が混ざり合って出来た民族である。しかしその様々な渡来人の中に、古代イスラエル人もいた。そして古代イスラエル人は日本の天皇制や神道、また風習や伝統文化の多くといった、日本人にとって最も中心的なものをもたらしたと考えたのである。

こうしたマクレオドの研究等に刺激され、のちにユダヤ人のトケイヤー、アイデルバーグらも、実際に日本で調査検証して多くの優れた研究を発表している。このような流れは今日も様々なユダヤ人や、日本人、また外国人学者などの間に続いている。

日本の伝統文化も、もとはといえば渡来人がもたらしたものである。「騎馬民族征服説」で

有名な江上波夫・東大名誉教授も、

「日本列島で人類は発生していない。日本人はみな渡来人の子孫である」

と書いている。私たちは渡来人の子孫だ。どんな渡来人であったのか。本書はそれを知るうえで、多くの示唆に富むものであると私は信じている。

じつは最近では、遺伝子研究からも、日本人は特殊な遺伝子を持った渡来人の子孫であることがわかつている。

遠い先祖をみるうえでは、よくY染色体（男性が持つ）のDNAが用いられる。Y染色体にはいろいろな系統があつて、日本人のうち40%近くはY染色体D系統の持ち主である。また50%はO系統であり、残り約10%は他の系統だ。

日本人の約半分を占めるO系統は、アジアでは典型的なものであり、実際、中国人や韓国人等はそのほとんどがO系統である。だからO系統の人々は、彼らと同系統のところから来ている。

ところが、D系統は世界の中でも、またアジアの中でもたいへん珍しい。中国人や韓国人にはほとんどD系統がないのだ。そのD系統が、日本人には40%近くもある。

そしてD系統は、世界中のユダヤ人グループが持つE系統と、じつは「近縁同祖」なのである。もともとDE系統というものがあつて、それがD系統とE系統に分かれた。

古代イスラエル人の血を引くサマリア人の間で生きてきたレビ族の人々（祭司）も、E系統である。シルクロードに今も残る古代イスラエルの失われた10部族の末裔の多くは、E系統ないしD系



統である。

さらに今日のユダヤ人も、世界中のユダヤ人グループにおいて、E系統が大変多い。

このように遺伝子の面でも、渡来人の子孫である日本人は、彼らと強いつながりを持っていることが明らかである。

古代イスラエル人とは一体どのような人々であったのか。それが私たち日本人と強いつながりを持っているとは、どのような意味を持つのか。それらの判断は、読者自身がしていただきたい。

2018年5月2日

久保有政

3 まえがき

7 新装版 まえがき

## 第一部 日本の中に生きる古代ユダヤ 久保有政

- 18 皇室「菊の御紋」とエルサレム「ヘロデ門の紋」はなぜ同じなのか  
知られざる皇室の紋章「獅子ライオンと一角獣ユニコーン」の意味するもの
- 39 祇園祭と古代イスラエルの祭は同じものである
- 50 時代をさかのぼるほど顕著「ユダヤ人タイプ」の日本人とは
- 67 神道の神事「日本の相撲」の起源は聖書にある
- 71 蛇信仰

- 77 赤穂四十七士はユダヤ人の精神と酷似している
- 82 結婚式にも日ユ共通点あり
- 88 京都御所での罪の贖あがないの儀式
- 94 日本の神社の大半は秦氏が創建していた
- 100 神道の元は一神教
- 105 日本神道はもともと唯一の神を信じていた
- 113 日本固有「造化三神」とユダヤ・キリスト教「三位一体神」
- 118 「古代イスラエル宗教」が「神道」と最もよく似ている
- 126 「ひい、ふう、みい……」はヘブル語
- 131 神道用語になったヘブル語
- 137 八咫鏡やたのかがみのヘブル語
- 147 「アマテラス」と古代イスラエルの太陽崇拜
- 152 天皇家とエフライム族
- 161 仏教渡来と共にもたらされた金ピカの仏像
- 164 日本の歴史の書き換え

## 第二部 ノーマン・マクレオドの「日本案内」

ノーマン・マクレオド著 久保有政訳

178	世界一古い日本の王朝
185	神道の起源
188	日本のバアル
190	祖先崇拜、英雄崇拜
194	太陽神崇拜
200	日本研究、神道研究
210	歴代の天皇とその墓
222	長崎
226	神戸
230	大阪
237	奈良
240	京都
261	東海道
276	東京

287	286	285	282
	軍隊と警察	医薬と医院	教育
	鉄道、電信、郵便、灯台		

### 第三部

## 日本人とは誰か

エドワード・オドルム教授 久保有政訳

308	305	303	301	299	296	294	293	290
		日本の聖なる雄牛	アマテラスとは何か	クリミア半島のヘブル語の墓碑銘	日本にあるイスラエルの機具	日本の秘密はその先祖にある	日本の繁栄の秘密	解説と講演
		日本にあるイスラエルの絵						
		日本の中の「イスラエル」						

資料

322 318 316 313 310

下に横たわる大いなる水の祝福

日本にあるイスラエルのな楽器

日の丸の起源

聖なる黒い雄牛

武士の起源

ユダヤ百科事典に記された「日本」

久保有政

331 329

あとがき

推薦図書と参考文献

第一部

日本の中に生きる古代ユダヤ

久保有政

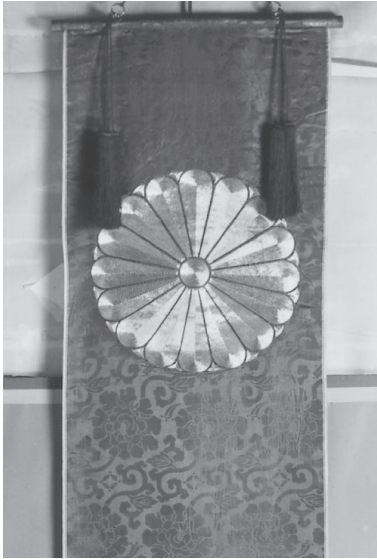
イラストは、ことわりのない限りはノーマン・マクレオドの『日本古代史の縮図』のための挿し絵集』からとったものである（写真類を除く）。

## 皇室「菊の御紋」とエルサレム「ヘロデ門の紋」はなぜ同じなのか

### 王家のマークと古代イスラエル

日本の皇室の紋章と言えば、菊の御紋である。中央の小さな円と、そのまわりの一六枚の花びらとからなっている。菊の御紋は、古くからの伝統に基づいている。しかし、古い時代の菊の紋章を見てみると——この紋章は中央の円がもう少し大きく、菊というよりはヒマワリに似た形だったことがわかる。それはエルサレムのヘロデ門上部に今もある紋章と、ほとんど同じ形をしている。エルサレムのヘロデ門の紋章も、やはり一六枚の花びらであり、日本の皇室の紋章（一六菊花紋）と同じである。この形は、中近東地域では、古代からあちこちで用いられていたマークだった。もつとも、中近東のマークは、「菊の紋」とは呼ばれていない。イスラエルには昔、菊はなかった。この形は、古代のイスラエルや中近東地域で広く用いられていた一種のデザインであった。シュメールの遺跡にも、多数見られる。エジプトでも、バビロニアでも、同じマークが発見されている。い





エルサレムのヘロデ門上部にあるマーク。  
一六菊花紋に似ている。

錦の御旗にある皇室の菊の紋。  
一六菊花紋である。  
(東京国立博物館蔵)

ずれも、王家にかかわるマークとしてよく用いられていた。

以前イラン・イラク戦争のとき、ヨーロッパの記者が、イラクのサダム・フセイン大統領の腕輪のデザインが一六菊花紋であることを見て、大統領に、「閣下の紋章は、日本の皇室の物とよく似ておりますが、何か日本と関係があるのですか？」と聞いた。するとサダム・フセイン大統領は、「この紋章は、我が国の祖先が世界最古の文明を築いたシュメール王朝時代に用いていた、王家の紋章だ」と答えたという。

一六菊花紋は、中近東からイスラエルにかけて用いられた王家の紋章なのである。それがなぜ、日本の皇室の紋章となっているのか。これは日本の皇室と中近東とのつながりを示す一つの事柄である。

## 知られざる皇室の紋章「獅子と一角獣」の意味するもの

それはユダ（獅子）とイスラエル（一角獣）を表すのか

日本の神社を見ると、その参道の両脇や拝殿の前などに、一對の「狛犬」が座している。狛犬を「偶像」と思う人もいるが、いわゆる偶像ではない。人々がそれを神として拝むことはないのである。狛犬は、神社の守り役として置かれたものである。

狛犬は、もともと「高麗犬」、すなわち朝鮮半島から来た犬、と思っている人も多いことだろう。しかし朝鮮半島では、それは中国の犬（唐獅子）と呼ばれていた。さらに中国では、ペルシャの犬と呼ばれていた。

中国で「狛」は、中華思想（中国が世界の中心だとする思想）により、「周辺の野蛮な地」を指していたようである。つまり中国における「狛犬」は、中国の外の野蛮な異国の地に棲む正体不明の怪しい犬のような動物、くらしいの意味だった。

すなわち「狛犬」は、シルクロードを通し、ペルシャやエジプト方面の中近東からやって来たものである。考古学者は、狛犬はもともと中近東から来たことを、一致して認めている。

以前、私は岐阜県下呂町げろにある「狛犬博物館」に立ち寄ったことがあるが、そこでも狛犬の起源は中近東であると、詳しい図入りで解説されていた。

中近東の様々な古代神殿から、日本と同じような狛犬が多数発見されている。そして中近東地域の神殿や王宮の狛犬の起源は、古代イスラエルにある。

紀元前一〇世紀に建てられたソロモンの神殿には、獅子ししのレリーフがあり（第一列王記七章三六節）、またソロモンの王宮の王座のわきには、二頭の獅子像があった。

「その王座……のひじかけのわきには、二頭の雄獅子が立っていた。また十二頭の雄獅子が、六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたためしなかった」（同一〇章一九節）。

この風習は、中近東のあちこちに広まり、インドに伝わり、また中国、朝鮮半島、日本にも伝わった。しかし、日本の狛犬には、他の国のものとは異なる幾つかの特長がある。

それは第一に、日本の狛犬は、「阿吽あうん」の形式になっていることである。すなわち一方が口を開け（「あ」の発音の形）、一方が口を閉じている（「ん」の発音の形）。阿吽の形になっているのは日本特有の形式で、中国の獅子像などは阿吽にはなっていない。

また第二に、日本の狛犬は正確にいうと、向かって右側が「獅子」であり、一方、左側が「狛

犬」なのである。

今日では、ふたつを混同して双方とも「狛犬」と呼ぶことが多い。だが、もともと左右は別のものであった。

右側が獅子（ライオン）であり、左側が「狛犬」と呼ばれる動物だったのである。すなわち「獅子と狛犬」である。平安時代などには、両者は明確に区別されていた。

獅子は、頭部が毛におおわれた猛獣、すなわちライオンのことである。ライオンは昔の日本には一頭もいなかった（今日でも動物園とサーカス団くらいにしかない）。そのいなかったライオンが、なぜ古代から日本の神社の守り役として鎮座するようになったのか。

日本には、「獅子舞」などの文化もあるが、右側に座す獅子ともども、これらは海外から来たものである。

では、左側に座して「狛犬」と呼ばれた動物の正体は、いったい何だったのか。それが、じつはユニコーン（一角獣）と呼ばれるものなのであった。

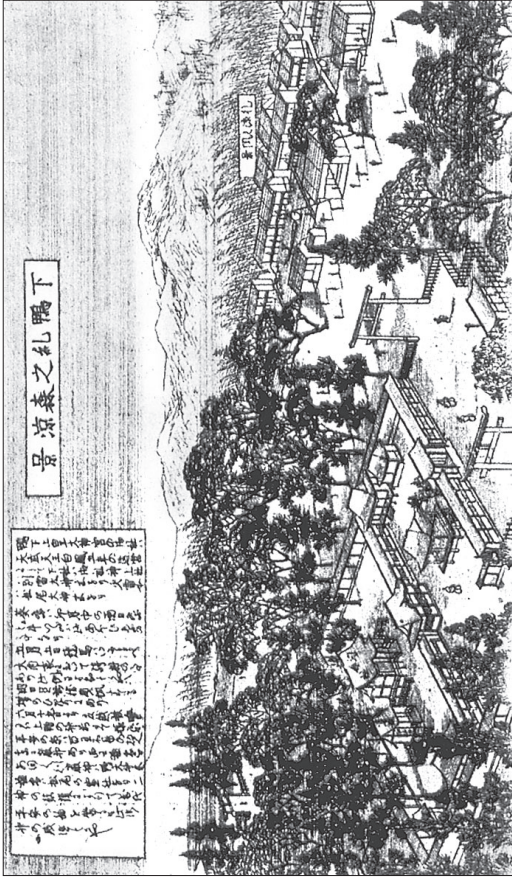
### 皇室とユニコーンの起源

ユニコーンは、頭に角が一つある動物である。架空の動物、想像上の動物なのだが、日本の皇室と神社に古くから伝わっている。

皇居は、明治時代になって東京に移る以前は、京都にあった。京都御所が旧皇居であるが、その

SHIMOGAMO ST

景涼森之礼鴨下



下鴨神社（京都市左京区）。上賀茂神社とともに秦氏に深くかかわっており、天皇家の祭儀を執り行ってきた。そこには、本殿の前に立派なユニコーンと獅子が座している。



下鴨神社（京都）にあるユニコーン。見事な角が一つある。（社殿の左側。右側は獅子である）

清涼殿せいりょうでんにある天皇の座の前には、獅子しし（ライオン）とユニコーンの像があった。平凡社『世界大百科事典』に、こう記されている。

「平安時代には……たとえば清涼殿の御帳前や天皇や皇后の帳帷ちようかたひらの鎮子ちんずには、獅子と狛犬かひぬが置かれ、口を開いたのを獅子として左に置き、口を閉じ頭に一角を持つもの（人の邪正をよく知るといふ解多かいちと言われる獣）を狛犬として右に置いた」（狛犬の項）

かつて京都で天皇家の祭儀を行なっていた下鴨神社しもがもにも私は行って見たが、その拝殿前にも、立派なユニコーンが見られた。左側に座す狛犬こまぬの頭に、太く長い角がある。

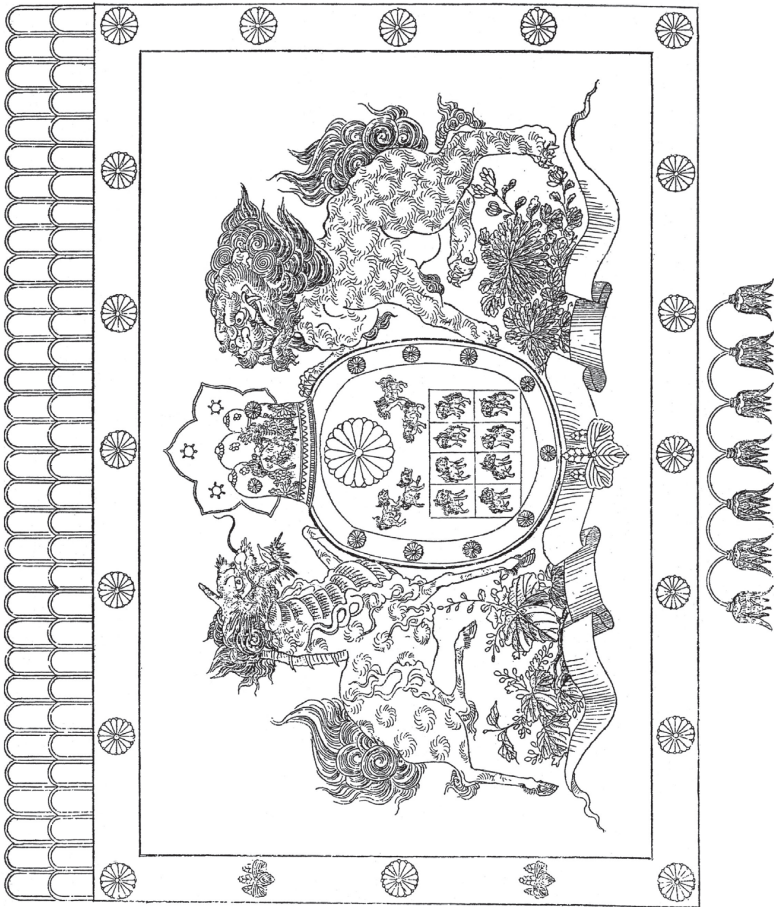
天皇の即位式で使われる「高御座たかみくら」にも、ユニコーンのデザインがある。

日本の皇室に古くから伝わるこのユニコーンに着目したのが、ノーマン・マクレオドだった。彼はスコットランドの商人で、明治時代の文明開化の時期に日本にやって来て、ながく日本に滞在した。

マクレオドは、「日ユ同祖論」（日本・ユダヤ同祖論）の古典とも言われる『日本古代史の縮図』を著した人物である。彼はその二年後、この本のための『挿し絵集』を出版した。この挿し絵集は、マクレオドが当時の日本で収集した絵を一冊の本にしたものだが、その中に日本の皇室のユニコーンの図が幾つかある。

一つ興味深いのは、獅子とユニコーンが盾たてを左右から支えている図柄である。スコットランド人であるマクレオドには、すぐこれが目に入った。なぜならユニコーンは、スコットランド王ジェー

UNLTD CRESTS OE ISRAEL AND JUDAH  
 WITH THE UNICORN ISRAEL'S CREST IN CENTRE OF CROWN,  
 ALSO LIONS OF TEN TRIBES AND TWO CUBS,  
 SEE IMPERIAL CROWN AND  
 IMPERIAL AND TYCO  
 SAMAS PALACE GATES KIYTO.



ABOVE AND BELOW ARE  
 COPIES OF THE STONES OF SOLOMONS  
 PALACE WITH IMPERIAL CREST  
 OF JAPAN SEE SMITHS BIBLE DICTIONARY

マクレオドはこの図柄を「イスラエルとユダの統一紋章」と解した。両側の動物は、右が獅子、左はユニコーン（一角獣）である。両者に挟まれた中央上部に天皇の王冠が描かれている（27ページも参照）。こうした獅子とユニコーンの組み合わせは、京都御所（旧皇居）や、太閤秀吉の宮殿の門にも見られる【『ソロモン宮殿の石と日本の皇室紋章』（スミス聖書事典）より】。

ムズ一世（一五六六〜一六二五年）のシンボルでもあり、またイギリス王家の紋章も、獅子とユニコーンが盾を左右から支えている図柄だからである。

日本の皇室のこの図柄は、イギリス王家の紋章によく似ている。では、日本の皇室の図柄は、イギリス王家の紋章を真似たものなのか、というところではない。違いが幾つかある。

日本の皇室の図柄において、盾の中には菊の御紋と、小さな獅子の絵が一二ある。また盾の上の王冠は、天皇の王冠だが、そこにもユニコーンの図柄がある。

また先に述べたように、獅子とユニコーンの組み合わせは、神社の一对の狛犬としても古くから日本に存在していた。平安時代の皇居にも、それがあつた。それはイギリス王家の紋章ができるよりも、ずっと前のことだ。

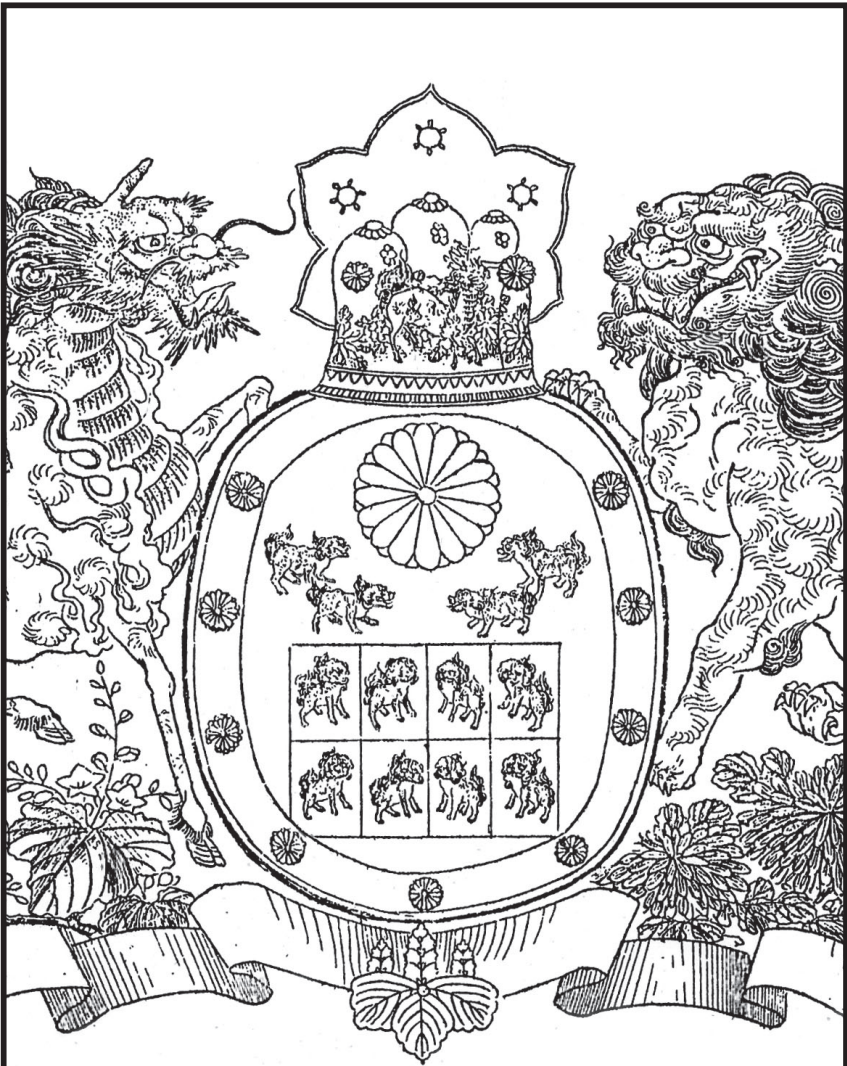
獅子とユニコーンの組み合わせは、はじめに天皇家で使われるようになり、のちに神社でも見られるようになったらしい。今も神社によっては、左側の狛犬の頭に角がある。

ユニコーンの起源は、一体どこにあるのか。ユニコーンは、昔「かいち」（獬豸）と呼ばれた。またもつと古く、中国では「じ」（兕）と呼ばれていた。

また、日本にキリンビールというビール会社がある。この「キリン」は、あの首の長い動物のことではない。キリンビールのラベルを見ると、首が短く、頭に角が一つある動物が描かれている。これは漢字で「麒麟」と書き、中国の想像上の動物で、やはりユニコーンである。

ユニコーンは、ヨーロッパの絵画や文学にも、よく登場する。ヨーロッパでは、制御しがたいユ





25ページの図柄の中央部分の拡大。中央上部は天皇の王冠で、わかりにくいかもしれないが、やはりユニコーンが描かれている。王冠の下には、一六菊花紋と、12頭の獅子がいる（10頭の獅子と2頭の子獅子）。「これはイスラエルの12部族に由来するものか」とマクレオドは言う。

ダヤ人を表すものとして描かれていることが多かった。

しかし、さらにさかのぼると、その起源は古代イスラエルにある。ユニコーンはもともと、イスラエルの一二部族の一つ「ヨセフ族」の紋章、シンボルだったのである。

ヨセフは、イスラエル民族の父祖ヤコブの本妻ラケルから生まれた子である。このヨセフ族から出た「エフライム族」は、のちの北王国イスラエル一〇部族の王家の部族となった。

その元の部族ヨセフ族の紋章あるいはシンボルは、ユニコーンであった。旧約聖書にはヨセフの部族について、

「彼の角は野牛の角。彼は諸国の民を角で突き倒し、地の果てにまで進み行く」（申命記三三章一七節）

と述べられている。この「野牛」が、のちにヘブル語聖書の古代ギリシャ語訳Ⅱ『七〇人訳聖書』において、「一角獣」すなわちユニコーンと訳された。

『七〇人訳聖書』は前三世紀〜前一世紀頃成立し、古代ユダヤ人が使っていたものである。だが、それ以前からもユダヤ人の間では、「ヨセフのシンボルはユニコーン」と理解されていたらしい。

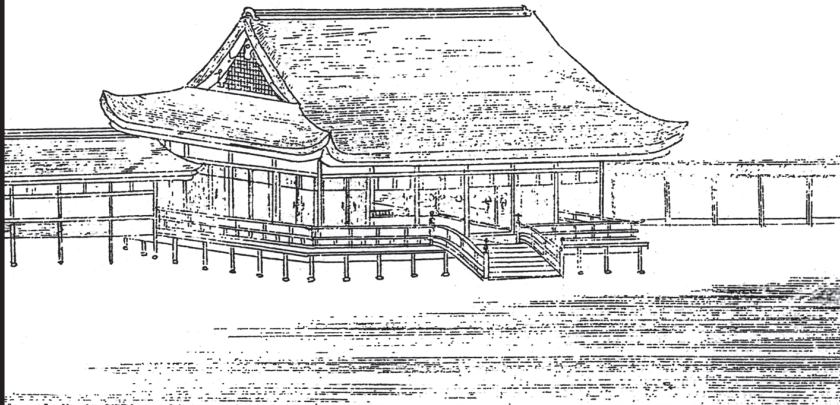
のちにローマ・カトリック教会のラテン語訳聖書（ウルガタ。西暦四〇五年頃成立）でも、この「ユニコーン」が継承され、ヨーロッパに広まった。ユニコーンはヨーロッパなどでは白い馬のようには描かれたこともある。また様々な想像が加えられて、特殊な容貌を持つものともされている。

ユニコーンは、中世ヨーロッパのキリスト教世界では、キリスト教の威光に容易には服さない野



東京・広尾にあるユダヤ教会（シナゴグ）に、イスラエル12部族の紋章が掲げられているが、ヨセフの部族の紋章はユニコーン（一角獣）である。

## EMPEROR'S PALACE RESIDENCE



京都御所（旧皇居）の清凉殿。天皇の住居であった。ここにも天皇の座の左右に、獅子とユニコーンがあった。

生の力の象徴ともされた。その「野生の力」の最たるものはユダヤ人だったから、ユダヤ人とユニコーンはよく結びつけて語られた。しかし、聖書の「野牛」がユニコーンになったのであって、ユニコーンの原型は、どう猛な「野牛」だったのである。つまりそれは「一角牛」であった。

以前、私は東京・広尾にあるユダヤ教会（シナゴグ）に行ったことがある。会堂内部の真ん前にはトラーの壇だんがあり、その周囲にはイスラエル一二部族を表すレリーフが彫ってあった。ヨセフの部族のレリーフを見ると、それはユニコーン＝一角牛だった。

このようにユニコーンは、ヨセフ族のシンボルであった。またそれは、「北王国イスラエル＝〇部族」の王家の紋章でもあった。

古代イスラエルは、ソロモン王の時代には統一王国であったが、前九三三年、「南王国ユダ」（二部族）と、「北王国イスラエル」（一〇部族）とに分裂した。この北王国の王家は、エフライム族であり、彼らはヨセフ族に属し、その紋章はユニコーンであった（ヨセフの子はエフライムとマナセ）。

### 終わりの日、日本においてユダヤ人と失われた一〇部族が合体する!?

興味深いことに日本では、先にみたように「獅子とユニコーン」の組み合わせが一对になっている。ユニコーンは、北王国イスラエルの王家のシンボルである。では、もう一方の獅子は何だろうか。

獅子は、南王国ユダの王家の部族＝ユダ族のシンボルなのである。聖書に、

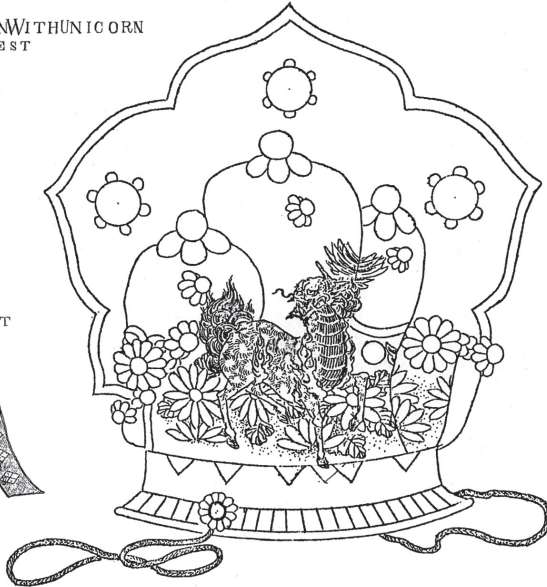
SUPPOSED THREE CROWNS OF ISRAEL

EMPEROR

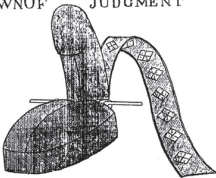
日本の天皇



REGAL CROWN WITH UNICORN  
ISRAEL'S CREST



CROWN OF JUDGMENT



AMONGST RUINS OF SOLOMON'S PALACE

[マクレオドの注釈]

(上) (右下) 天皇の冠。イスラエルの(ヨセフの)紋章ユニコーンが見られる。  
天皇、皇后どちらの冠にも、ソロモン宮殿の遺跡で発見された紋章がついている。  
(左下) さばきの冠(天皇は神道の祭儀においてこれをかぶる。)

「ユダは獅子の子。……彼は雄獅子のようにうづくまり、雌獅子のように身を伏せる」（創世記四九章九節）

とある。つまり、獅子はユダ族のシンボル、一方ユニコーンは、ヨセフ族またエフライム族のシンボルである。ユダ族は南王国ユダの中心、エフライム族は北王国イスラエルの中心である。つまり神社の「獅子と狛犬」は、「南北統一イスラエルのシンボル」と解せないわけではない。

旧約聖書には、やがて南王国ユダのユダヤ人と、北王国イスラエルの失われた一〇部族は終わりの日に合体する、一つになるとの預言がある。

そこで、獅子とユニコーンの組み合わせは、マクレオドには、「（南王国）ユダと（北王国）イスラエルの統一紋章」に見えた。先の図の盾の中の一二の獅子はまた、彼らが計一二部族であることを具体的に示すものだった。彼は図の説明に、そのようなことを書いている。

つまり、獅子とユニコーンの組み合わせは、南王国ユダと北王国イスラエルの回復・合体の夢を表現したものとも思えるのである。

## 阿吡はアーメン

さらに言うなら、神社の狛犬は、必ず「阿吡<sup>あうん</sup>」の形になっている。つまり右側の獅子は口を開け（阿）、左側の狛犬は口を閉じている（吡）。阿吡という言葉は、じつは元はヘブル語やギリシャ語の「アーメン」から来たものだ。